
花の名前

桜華蒼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

花の名前

【コード】

N1820E

【作者名】

桜華蒼

【あらすじ】

今日（5月1日）は「哀の日だそうぞす

「たまにはローストビーフでも買ってやれよ」
哀が米花デパ地下で、ぼんやりと色とりどりの食材を眺めていると、声がかかった。

振り返らずともわかる聞きなれた声。

「あなたもお使い？」

目の端に入った袋に哀は聞いた。

「来客用のお菓子だよ」

思った通りのコナンの姿に

「そう」とだけ、哀が返す。

「わざわざ声かけなくても学校でさっきまでいたじゃない」

「用がなければ、声もかけないのか？」

「私はね」

「灰原、おめーさ」

とコナンは哀の手を引き、エスカレーター脇の椅子の置かれたところまでくると、哀の肩を押して座らせる。

「なによ？」

見上げる哀に、コナンはふと笑う。

「用はねー。ただ、会いたいからいるだけだよ」

唇を寄せ囁くように告げると、一瞬でピンク色に染まる耳。

顔も真っ赤なんだろうと思いつつ、俯きっぱなしの哀の仕草が可愛くて、そつと髪を梳いた。

「こんなところで、バカじゃないの」

そう言いながら、手を払おうとする。

「ふたりきりならいいわけ？」

意地悪くコナンが囁いて、哀はコナンの頭を自分に寄せた。

「……きかせて」

聞いたことのないような甘い言葉。

コナンの心音は、バクバク早鐘を打ち始める。

「はい」

ばら。と続けようとしたが、哀はするりと立ち上がり、コナンの脇を通る。

「すごい真っ赤」

冷めた目つきで言うなり、惣菜コーナーにすたすた歩きだす。

「……………お互い様」

コナンは苦笑して、哀の後を追った。

「ちょっとついてこないでくれる？」

「やだね、灰原の近くにいないと枯れちゃいそうだし」

「……………？ なんのはなし？」

「花だよ、花」

「意味わからない」

「そうか？ 俺はおめーにも咲いてると思っけど」

END

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1820e/>

花の名前

2010年12月21日16時16分発行